

室蘭工業大学-学報

NO.606



教員の業績評価システム（ESTA2019）における優秀教員表彰式後の記念撮影（1ページに関連記事あり）

2020年4月号

目 次

◇ 学内の動き ◇	
教員の業績評価システム（ESTA2019）における優秀教員表彰式を開催……………	1
大樹町と包括連携協定を締結……………	1
◇ 情報・資料 ◇	
THE世界大学ランキング日本版2020「教育成果」で道内3位にランクイン……………	2
令和2年度公開講座……………	3
令和元年度教育方法等改善経費の実施報告について……………	5
英語での大学院授業における表現方法の向上 （令和元年度教育方法等改善経費実施報告シリーズ1）……………	6
携帯型GPSとiPadを用いた野外防災教育：3次元デジタルレーザー地形図を用いた フィールド教育の実践（令和元年度教育方法等改善経費実施報告シリーズ2）……………	7
理工学フレッシュマンセミナースタートアップ （令和元年度教育方法等改善経費実施報告シリーズ3）……………	8
プログラミング入門に向けた演習教材と演習環境の事前評価 （令和元年度教育方法等改善経費実施報告シリーズ4）……………	10
◇ 外部資金 ◇	
民間等との共同研究の受入れ……………	11
奨学寄附金の受入れ……………	12
◇ 人 事 ◇	
人事異動……………	13
◇ 学内会議 ◇	
学内各種委員会等の開催……………	21
◇ 日 誌 ◇	
学内行事……………	22
学外行事……………	22

学内の動き

教員の業績評価システム（ESTA2019）における 優秀教員表彰式を開催

令和2年3月17日（火）に本部棟小会議室において、教員の業績評価システム（Examination System for Teachers' Activities 2019, ESTA2019）における優秀教員表彰式を実施しました。

この表彰制度は、これまで実施してきた教員の多面的評価システム（Appraisal System for Teachers' Activities）における「教育」、「研究」、「社会・国際貢献」、「部局・大学運営」の業績について3年分の累積点数を評価するもので、優れた業績の教員を見出すことを目的として平成27年度から開始したものです。10名の優秀教員が受賞し、表彰式には7名が出席しました。

表彰式では、松田理事（総務担当）の列席のもと、空閑学長から一人ひとりに表彰状が贈呈され、受賞を祝う言葉が述べられるとともに、今後の更なる活躍を期待する励ましの言葉がありました。

令和元年度教員の業績評価システム（ESTA2019）における優秀教員

もの創造系領域	教授	木 幡 行 宏
もの創造系領域	教授	佐 藤 孝 紀
もの創造系領域	教授	清 水 一 道
もの創造系領域	教授	関 根 ちひろ
もの創造系領域	教授	中津川 誠
もの創造系領域	教授	濱 幸 雄
もの創造系領域	准教授	有 村 幹 治
しくみ解明系領域	教授	董 晃 雄
しくみ解明系領域	教授	平 井 伸 治
しくみ解明系領域	准教授	太 田 香

（領域・職位・五十音順）

大樹町と包括連携協定を締結

令和2年3月30日、室蘭工業大学と大樹町は「包括連携協定」を締結いたしました。

大樹町では、航空宇宙関連企業の誘致による雇用創出、移住定住の促進、産業振興、観光振興など地域活性化を図る「宇宙のまちづくり」を核とした地方創生を重要政策と位置づけています。

一方、室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センターでは、超音速無人実験機に関するシステム開発研究を通じて、人材育成や研究分野の開拓を目指しており、大樹町の多目的航空公園内の滑空場において飛行実験や大樹町に本社を置く宇宙開発企業との共同研究等を行っています。

このような背景の中で室蘭工業大学及び大樹町は、相互の発展に寄与することを目的として、以下の事項に取り組んでまいります。

「包括連携協定」の連携・協力事項

- (1) 地域づくり・まちづくりの推進に関する事
- (2) 産業振興など地域経済の発展に関する事
- (3) 環境の保全及び防災対策の推進に関する事
- (4) 住民との協働の推進に関する事
- (5) 教育及び人材育成の推進に関する事
- (6) 学術研究の振興に関する事
- (7) 施設の相互利用に関する事

THE 世界大学ランキング日本版2020「教育成果」で 道内3位にランクイン

令和2年3月24日、THE世界大学ランキング日本版2020が発表されました。

イギリスの教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（Times Higher Education）が日本版の大学ランキングを発表しました。

本学は、「教育成果」の指標で**北海道第3位**に選ばれ

ました。これは、企業人事や研究者の評判調査結果から、どれだけ卒業生が活躍しているかを表しています。

室蘭工業大学は工業大学としての教員の確かな研究力と延べ39,000余の同窓生の活躍を実績として教育改革を進め、地域にそして世界に貢献できる理工系学生の育成に邁進します。

令和2年度公開講座

令和2年度の公開講座は、以下のとおり実施する予定です。

講座名	受講対象	募集人員	期間	総時間数
フィジカルコンピューティング入門	一般（高校生以上）	10名	令和2年8月21日	4
室蘭イタンキ浜の鳴り砂を科学する！	一般（高校生以上）	10名	令和2年8月29日	4
自然災害への備え ～高潮、津波、土砂崩れに備える～	一般（高校生以上）	未定	令和2年9月5日	3
カフェでサイエンス2020 ～抽出を知って最高の一杯をあなたに。	一般（高校生以上）	20名	令和2年10月、11月	4
3次元プリンターによる造形	一般（高校生以上）	8名	令和2年11月	6
北欧デンマークのクリスマスを体験： ハート形の飾り付け「ユーレイエアテ」を作ろう！	一般（中学生以上）	12名	令和2年12月12日	1.5
安全講習会（自由研削用といしの取替え等の業務特別教育）	室蘭市・登別市・伊達市・西胆振地域にお勤めの方	10名	令和3年1月27日	6
安全講習会（低圧電気取扱業務特別教育（実技は開閉器の操作の方法のみ））	室蘭市・登別市・伊達市・西胆振地域にお勤めの方	10名	令和3年1月28日	8
ゴルフを科学・物理・力学から考える	一般（高校生以上）	10名	未定	4.5
魅力溢れる北海道方言の世界	一般（高校生以上）	10名	未定	3
異文化理解講座：世界各地の言語・文化の特徴と相互理解	一般（高校生以上）	20名	未定	9
韓国語講座	一般（高校生以上）	7名	未定	7.5
北欧コペンハーゲンと旅のデンマーク語	一般（高校生以上）	12名	未定	4.5
【最先端高度技術講座】 応力・荷重・圧力・変位を測る技術者のための「① ひずみ測定基礎講習会」	その他 （企業の技術者）	6名	未定	2.5

講座名	受講対象	募集人員	期間	総時間数
【最先端高度技術講座】 応力・荷重・圧力・変位を測る技術者のための「② ひずみ測定実技講習会」	その他 (企業の技術者及び研究者)	6名	未定	2.5
【最先端高度技術講座】 応力・荷重・圧力・変位を測る技術者のための「③ 測定器の自主点検講習会」	その他 (企業の技術者)	6名	未定	2.5
航空宇宙のおはなし	未定	未定	未定	未定

令和元年度教育方法等改善経費の 実施報告について

令和元年度の教育方法等改善経費については、4件の申請があり、審査委員によるヒアリングを行い、下表のとおり4件が採択されました。

経費執行の透明性・公平性確保の面からも広く学内に公表することとされておりますので、事業結果については学報に数回にわたり実施報告書を掲載し、併せて全学の教育方法等の改善のために参考に資することといたします。

令和元年度 教育方法等改善経費採択一覧

番号	事業名	実施組織		採択額
		組織名	代表者	
1	英語での大学院授業における表現方法の向上	環境創生工学系専攻化学生物工学コース	庭山 聡美 教授	334,000
2	携帯型GPSとiPadを用いた野外防災教育：3次元デジタルレーザー地形図を用いたフィールド教育の実践	野外防災実践教育組織	後藤 芳彦 准教授	330,000
3	理工学フレッシュマンセミナースタートアップ	フレッシュマンセミナー担当教員グループ	澤口 直哉 准教授	753,330
4	プログラミング入門に向けた演習教材と演習環境の事前評価	情報教育センター	小川祐紀雄 准教授	281,854
			合 計	1,699,184

英語での大学院授業における表現方法の向上

環境創生工学系専攻化学生物工学コース 庭山 聡美

本事業は、博士前期課程環境創生工学系専攻化学生物工学コースの基幹科目で系統的他コース履修科目でもある「環境有機化学特論」において、有機化合物一般の構造を決めるために重要な手法である核磁気共鳴 (NMR)、赤外 (IR)、質量分析 (MS) などの機器分析法によって具体的に構造の決め方の理解を深め、能動的に構造決定を行うようになることを第一の目標とした。さらに、本授業は100%英語で行っているため、このように内容の理解力を深めることや演習のような活動を通し、英語による授業の理解力も深めることも目標とした。

そのためには上記の機器分析法における精度の良いスペクトルチャートを提示し、その解釈のプロセスをリアルタイムで解説することが必須である。この目的のためにこの事業において、作業過程を現実的に提示でき、拡大も可能な装置である書画カメラ (資料提示装置) を購入した。これにより特に例えば ^1H NMRスペクトルの解釈の際に、シグナルが分裂してカップリングを起こしている場合の細かな分裂パターンを解説したり、カップリング定数を読み取ったり、それがシグナルのどこに現れているか、シグナルのどの部分同士がカップリングしているかをデバイダーなどの道具を併用して、その解釈法を拡大しながら現実的にデモンストレーションすることで有機分子の構造を導くというプロセスをリアルタイムで提示することができた。さらに、このプロセスを説明するのに用いた言語は100%英語であるため、この現実的なデモンストレーションは、履修している学生の英語での理解能力の増大にも直結した。

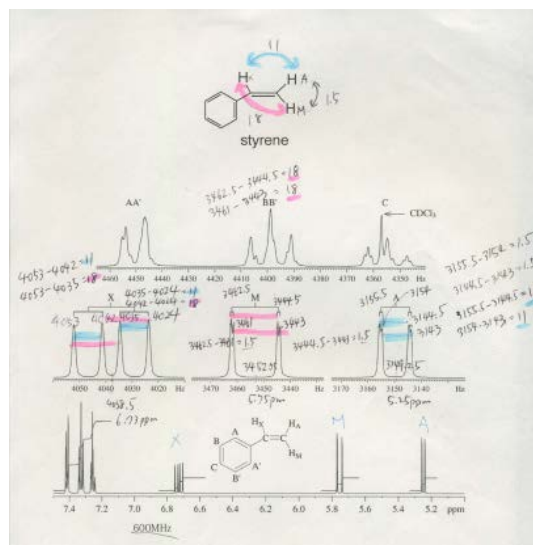
図に ^1H NMRスペクトル解釈の例を示す。この化合物の炭素-炭素二重結合上にある3つのプロトン同士は隣接しているため、互いに影響しあい、カップリングという現象を起こし分裂しているが、それらが二重結合に対しどの位置関係にあるかでカップリング定数が違い、それがスペクトルのシグナルの幅に現れている。このような場合、一般に炭素-炭素二重結合に対し、同じ方向 (cis) にある2つのプロトンのカップリング定数 (約6-12Hz) より、逆の方向 (trans) にある2つのプロトンのカップリング定数 (約12-18Hz) の方が大きいことが知られており、さらに同一炭素についている2つのプロトン同士はカップリング定数が非常に小さい (約0-3 Hz) ことも知られている。これらのことから3つのプロトンがどの位置に現れており、どのプロトン同士がどのカップリング定数により分裂しているか、色をつけながら、デバイダーや定規を用いて一つずつ説明した。

このような解釈を苦手とするために機器分析関係の授業を嫌う学生は多いが、このように現実に学生自身が行うように解釈のプロセスを提示することで能動的学習を促す効果があった。さらに説明はすべて英語で行ったため、英語の理解力向上にも大きく貢献した。パワーポイントでは時々画面が凍結したり、式を書き入れたりするのが困難であるが、この方法はそれらのような欠点がない上、デバイダーや定規などの補助の3次元物体を写したり、拡大も可能であるため、より効果的である。

特に演習においては、履修している学生が回答した答えを、この資料提示装置を用いて作業過程や考え方のプロセスを提示しつつ、学生とも質疑応答することが多かったため、これを全て英語で行うことで、学生も英語を使わざるをえない状況となり、学生の英語能力の増大に大きな効果を発揮した。

この授業方式は「環境有機化学特論」に限らず、他のすべての授業にも利用できる。特に作業過程を拡大しながら示す際に効果的である。

これは中期計画の1-1 (1) の (5)-2の“国際的な技術理解や表現能力育成のため、プレゼンテーションやPBLの要素を含む関係授業科目の内容と実施体制を検討し、その結果を教育へフィードバックするシステムを確立する”に相当する。



携帯型GPSとiPadを用いた野外防災教育： 3次元デジタルレーザー地形図を用いたフィールド教育の実践

野外防災実践教育組織 後藤 芳彦

大学院「地震火山防災工学」では、地震と火山に関する野外防災実習をクッタラ火山（登別）で行っている。この実習では、各学生が現在位置を地形図上で確認しながら、火口や断層などの火山地形の野外実習を行っている。また、クッタラ火山の噴出物に関する野外実習も行い、野外で実物に触れて実習を行う貴重な講義となっている。しかし、近年野外調査や野外実習の実体験が少ない学生が増加しており、野外で教育を行うことは非常に困難な状況になってきている。一方、野外調査で用いるデジタル地形図や測定機器は、驚異的なスピードで進化している。例えば、等高線を用いた2万5千分の1地形図に代わり、レーザー測量を用いた3次元デジタルレーザー地形図が広く使われるようになった。3次元デジタルレーザー地形図の代表例は、赤色立体地形図と呼ばれる3次元地形図で、地形の凹凸をパソコン上で立体的に目視することができる。また携帯型GPSの普及により、位置情報がデジタル化し、3次元デジタルレーザー地形図と携帯型GPSを組み合わせた調査手法が、防災野外調査の主流になりつつある。本事業では、クッタラ火山登別地域の野外実習において、大学院学生一人一人に携帯型GPSとiPadを持たせ、3次元デジタルレーザー地形図を用いた野外防災教育を行った。

本事業では、クッタラ火山登別地域の野外実習において、大学院学生一人一人に携帯型GPSとiPadを持たせ、3次元デジタルレーザー地形図を用いた野外防災教育を行った。クッタラ火山登別地域の3次元デジタルレーザー地形図をiPad上で動かし、野外においてデジタル位置情報を用いた防災実習を行った。本事業で用いた機器は、ハンディーGPSガーミンOregon 750TJ、アップル社製iPad 9.7インチWiFiモデルである。これらの機材をクッタラ火山登別地域の野外実習野外で使用し、その有用性を確認した。携帯型GPSとiPadを用いた野外防災教育は非常に有効で、以下のように教育を改善することができた。(1) iPadに保存された3次元デジタルレーザー地形図は、紙ベースの地形図よりも非常に使いやすく、学生は地形図を頻繁に見る。最近の学生はスマートフォンを多用しており、電子ディスプレイを見ることになっているためと考えられる。また、紙ベースの地形図は拡大・縮小が現地で行えないが、iPadに保存された3次元デジタルレーザー地形図は画面上で自由に拡大・縮小することができるため、非常に便利であるからであろう。(2) 携帯型GPSとiPadは、どちらもハンディーで相性

がよく、野外で使いやすい。学生はiPadに保存された3次元デジタルレーザー地形図だけでは現在地の確認はできないが、携帯型GPSとの組み合わせで現在地の確認が容易にできるようになった。紙ベースの地形図を用いていたときは、学生が現在地の確認することが非常に困難であったが、この問題が解消された。(3) 教員と学生の間で議論を行いやすい。紙ベースの地形図や論文を学生に渡しても、カバンの中に入れてしまい、見ることが面倒になりがちであるが、iPadに入った電子情報はすぐに見ることができ、学生と議論を行いやすい。また、関連論文をiPadに保存させておくと、議論の最中にすぐにファイルを開けて見ることができ、非常に便利である。

《令和元年度教育方法等改善経費実施報告シリーズ3》

理工学フレッシュマンセミナースタートアップ

フレッシュマンセミナー担当教員グループ

清水 一道, 真境名達哉, 山田 深, 湊 亮二郎,
 福田 永, 安居 光國, 本田 泰, 澤口 直哉

2019年度より理工学部のフレッシュマンセミナーが創造工学科昼間 325名, 夜間主 40名, システム理化学科 235名の必修科目として開講されるようになった。新入生が学科およびコースの特徴を知ること, グループワークを通してアクティブラーニングの基本を理解すること, を目的に掲げた授業である。授業開始に先立ち, グループワークをより効率的に進めるための物品を揃えるために本事業を提案し, 採択された。本事業の対象科目であるフレッシュマンセミナーの概要を示し, 本事業の実施ならびに一部の導入機器の使用法を報告する。

創造工学科昼間とシステム理化学科は各4クラスの同時開講, 創造工学科夜間主コースは1クラスの計9クラスで開講する計画に合わせ, 1クラス10グループを想定して, グループ討論に用いるホワイトボード, ホワイトボード周辺小道具, 書画カメラを必要数準備した。これらと別途手当された「フレッシュマンセミナー・スタートアップ資金」で整備した模造紙や付箋紙などを併用し, 授業計画に従ったグループワークを行うことができた。全履修生が同じ学習環境下でアクティブラーニングに取り組むことができ, この経験は高年次開講科目で実施されるアクティブラーニングの基礎の習得になったと考えられる。

表1に本事業で揃えた消耗品と備品を示す。台車はホワイトボードと関連物品の保管庫から教室への移動に用いた(図1)。ホワイトボード関連物品は納品後の第6週目以降に利用した。

書画カメラは, 同時利用を想定して4台備えたが, 2019年度は4台の同時使用はなかった。書画カメラはフレッシュマンセミナー以外でも有効利用できると考えられる。そこで, 参考のためにフレッシュマンセミナーでの利用例を紹介する。

フレッシュマンセミナーの後半の課題の一つとして, コースの特徴を掴んで貰うために, コースの研究室を訪問し, 行われている研究を調査・発表することを学生に課した。1週目にグループ単位で異なる研究室を訪問・調査させ, 2週目は書画カメラを用いて調査報告会を行った。報告のクオリティは1週目終了後から2週目開始までに学生達が課外で準備した内容と, 2週目の発表直前の準備内容で決まるが, 発表直前の準備がより重要である。もしパワーポイントあるいはポスターによる発表であれば, これらを作成して直ぐ発表するのは時間的に不可能であろう。一方, 書画カメラを用いると, 投影する発表資料をA4用紙に手書きで作成し, 当日発表することが可能である。実際, 厳しい時間配分にもかかわらず, どのグループの発表も1年生の最初の取り組みとしては満足すべきレベルであった。工夫として, A4の専用台紙を1週目に配付した。翌週までに研究室から提供を受けた画像資料を切り貼りし, ビジュアルな発表資料を用意したグループが多くあった。

本事業の整備品は今後も使用し, ホワイトボードの利用率は今後高まると予想している。書画カメラを含めて, 他の授業でも利用されるようになることを期待している。

表1 本事業で整備した物品

品目	数量	単位
ホワイトボード (ポータブル)	44	台
ホワイトボード用マーカー 黒, 青, 赤	各100	本
ホワイトボード用 イレイサー	44	個
マグネットバー	90	本
台車	2	台
書画カメラ	4	式



図1 台車

表2 書画カメラを利用したグループワークの日程例 (GW：グループワーク)

第1週			
分		項目	メモ
15	全体	連絡, 解説	全体説明
10		研究室へ移動	
40	GW	研究室訪問調査	
10		教室へ移動	
10		話し合い	A 4 台紙見本を配付, 課外での取組みを相談
5	全体	連絡, 片付け	
第2週			
分		項目	メモ
5	全体	GW説明	発表方法などの説明
30	GW	話し合い 発表資料作成	A 4 台紙, サインペン
5		発表準備	
45	全体	発表 書画カメラ利用	[10 G × 3.5分 (発表2.5分 質疑応答 1分) / G] + [10分 (予備)] = 45分
5		連絡, 片付け	



図2 書画カメラ用発表資料記入台紙 (参考)

《令和元年度教育方法等改善経費実施報告シリーズ4》

プログラミング入門に向けた演習教材と 演習環境の事前評価

情報教育センター 小川祐紀雄

1. 事業の概要

2019年下期開講の「プログラミング入門」は、情報教育の充実を目的に理工学部への改組に伴って新設された科目である。情報教育センター（桑田、石坂、早坂、小川）は、開講に向けて、次の課題に対応できるように準備を進めてきた。

- ・一年生全員の必修科目であり、誰もが取り組みやすい講義内容・演習教材を提供する。
- ・「わからない」が蓄積されていかなないように、授業でのつまづきを把握する。

開講に向けて、2018年度より教科書「Jupyter Notebookではじめるプログラミング 2019」を執筆しつつ、演習教材と演習環境の準備を進めた。今回、教育方法等改善経費事業により模擬授業を実施し、課題への対応状況を確認するとともに、開講に向けた準備を完成させる。

2. (模擬) 授業実施に向けた準備内容

授業では、実習室のパソコンを用いて実際にプログラミングを行う。(模擬) 授業の実施に向けて次の演習教材および演習環境を用意した。

- ・演習教材：対話的環境「Jupyter Notebook」(学習者がプログラムや値を入力すると計算結果やグラフなどが即座に表示される)を利用し、各授業の演習と課題を作成した。
- ・演習環境：学習者の学習状況の把握に向けて、プログラミングの対話の様子モニタリングシステム(国立情報学研究所のクラウド環境を利用)を開発した。

3. 模擬授業の実施日程と内容

教員4人、学生役補助者(学部学生12人)、TA役補助者(大学院生2人)により、表1および表2に示す計7回の模擬授業を実施した。

4. 模擬授業で得られた成果

模擬授業を通じた成果物として、(1)講義内容、教科書や演習教材(演習および課題用のNotebook)に対する感想や不明点などについてのアンケートおよびレポート、(2)演習教材の実施結果および実施状況のモニタリングデータ、を得ることができた。これらから、例えば次のような事柄を明確に把握することができた。

- ・最初は容易であっても授業を重ねるごとに理解度が低下し、一度下がった理解度はその後ほとんど回復しない。
- ・数名の生徒は説明が終わる前に演習を始めることが明示された。まるで早く終わること自体が目的のようである。

これらの成果物をもとに改めて講義方法や教材の見直しを行った。今回、模擬授業を行うことで、開講に向けた貴重な予行演習を行うことができたと考えている。

表1：模擬授業の実施日程と授業内容

回	実施日程	授業内容
第1回	6/13 14:35~16:35	イントロダクション
第2回	6/20 14:35~16:35	プログラミングの基本
第3回	6/27 14:35~16:35	条件判断
第4回	7/ 4 14:35~16:35	制御構造・繰り返し
第5回	7/ 6 10:00~18:00	データ構造
第6回		関数
第7回		アルゴリズム1

表2：模擬授業1回分の実施内容

#	実施項目	時間(分)	実施内容
1	事前学習	60	残課題(学生)、課題採点(TA)
2			教科書の学習内容の確認
3	事前説明	10	模擬授業の説明
4	模擬授業 授業相当部分	120	ポイントの説明
			90
5	その他	20	アンケートなどの実施

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額(千円)
しくみ解明系領域 准教授 安藤 哲也	大企業	1,650
合計(1件)		1,650

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

奨学寄附金の受入れ

寄 附 者	目 的	金 額 (千円)
ニューデジタルケーブル株式会社	寄 附 講 座	5,000
株式会社アクアジオテクノ	寄 附 講 座	1,000
岩田地崎建設株式会社	寄 附 講 座	1,000
特定非営利活動法人 地下資源イノベーションネットワーク	寄 附 講 座	1,000
太平洋興発株式会社	寄 附 講 座	2,000
一般社団法人北海道環境保全技術協会	寄 附 講 座	1,000
日鋼検査サービス株式会社	工 学 研 究 助 成	1,000
アベテック株式会社	工 学 教 育 助 成	150
公益財団法人電気通信普及財団	工 学 研 究 助 成	1,050
益村測量設計株式会社	工 学 研 究 助 成	500
古河電気工業株式会社	工 学 研 究 助 成	550
古河電気工業株式会社	工 学 研 究 助 成	550
生活協同組合コープさっぽろ	工 学 研 究 助 成	300
個人・団体 寄附者 (14件) ※室蘭工業大学古本募金	図 書 館 資 料 ・ 設 備 の 充 実 の た め	34
合 計 (14件)		15,134

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和2年3月31日	〈定年退職〉	酒 井 彰	大学院工学研究科教授 (もの創造系領域)
		樋 口 健	大学院工学研究科教授 (もの創造系領域)
		太 田 勝 久	大学院工学研究科教授 (しくみ解明系領域)
		岸 上 順 一	大学院工学研究科教授 (しくみ解明系領域)
		内 藤 真 一	入試戦略課課長
		岩 野 和 彦	学務課副課長
		松 本 浩 明	技術部技術専門員
令和2年3月31日	〈任期満了〉	高 久 雄 一	大学院工学研究科助教 (もの創造系領域)
		那 須 守	大学院工学研究科特任教授 (もの創造系領域)
		羽 山 満 之	施設課再雇用職員
令和2年3月31日	〈辞 職〉	Hagley Eric Thomas	大学院工学研究科准教授 (ひと文化系領域)
		勝 又 暢 久	大学院工学研究科助教 (もの創造系領域)
	香川大学		

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和2年3月31日	<p style="text-align: center;">〈辞 職〉(転出)</p> 北海道大学病院総務課人事労務管理室長 北海道大学医学系事務部会計課長 北海道大学施設部施設整備課長 北海道大学学務部教育推進課長 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課専門官 株式会社北洋銀行地域産業支援部管理役 北海道大学病院医療支援課課長補佐 北海道大学附属図書館利用支援課係長 (相互利用担当)	佐 藤 慎 悟	大学院工学研究科助教 (もの創造系領域)
		門 田 薫	施設課係長 (建築整備係)
		及 川 晃 男	総務広報課長
		岩 松 正 一	経理課長
		津 山 謙 一	施設課長
		的 野 裕 司	学務課長
		橋 本 明 子	研究協力課長
		熊 谷 正 広	事務局付課長
		笹 川 鉄 馬	総務広報課副課長
		長 嶋 岳 生	総務広報課図書学術情報室係長 (学術情報係)
令和2年4月1日	<p style="text-align: center;">〈採 用〉(転入)</p> 大学院工学研究科教授 (もの創造系領域) 兼務：社会連携統括本部 大学院工学研究科助教 (もの創造系領域) 大学院工学研究科助教 (しくみ解明系領域) 大学院工学研究科助教 (しくみ解明系領域) 大学院工学研究科特任教授 (しくみ解明系領域) 総務広報課長 経理課長 施設課長 学務課長 入試戦略課長 研究協力課長 総務広報課図書学術情報室係長 (学術情報係)	那 須 守	大学院工学研究科特任教授 (もの創造系領域)
		孔 徳 卿	東京工業大学研究員
		高 岡 旭	神奈川大学特別助教
		高 原 まどか	同志社大学特別任用助手
		岸 上 順 一	大学院工学研究科教授 (しくみ解明系領域)
		鈴 木 剛	国立高等専門学校機構総務課長
		佐 藤 康 幸	函館工業高等専門学校総務課 課長補佐
		荒 谷 正 樹	帯広畜産大学施設課長
		渡 邊 秀 雄	北海道大学工学系事務部教務課 係長
		千日坂 和 彦	旭川工業高等専門学校学生課長
		蟹 口 宏 幸	北海道大学病院総務課課長補佐
		菊 地 隆 憲	北海道大学附属図書館管理課 (図書受入担当)

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
	施設課係長（施設係（建築担当））	狩 野 悦 子	北海道教育大学施設課
	総務広報課係員（総務広報係）	泉 颯 汰	（新規採用）
	経理課係員（経理第二係）	吉 田 竣 稀	（新規採用）
	学務課係員（教育支援係）	小野寺 佑 香	（新規採用）
	総務広報課図書学術情報室再雇用職員（運用係）	岩 野 和 彦	学務課副課長
	技術部再雇用職員	松 本 浩 明	技術部技術専門員
	〈出向復帰〉		
令和2年4月1日	入試戦略課国際交流室長 兼務：入試戦略課国際交流室係長（国際企画係）	伊 藤 光 春	苫小牧工業高等専門学校総務課課長補佐
	〈昇 任〉		
令和2年4月1日	大学院工学研究科准教授（もの創造系領域）	川 村 幸 裕	大学院工学研究科助教 （もの創造系領域）
	技術部技術専門員	山 森 英 明	技術部技術専門職員
	研究協力課係長（研究戦略係）	木 村 友 也	研究協力課主任（研究支援係）
	経営企画課主任（財務戦略係）	笹 裕 幸	経営企画課係員（財務戦略係）
	入試戦略課主任（入学試験係）	白川部 直 人	入試戦略課係員（入学試験係）
	入試戦略課国際交流室主任（国際企画係）	田 嶋 学	学務課国際交流室係員 （国際企画係）
	〈配置換〉		
令和2年4月1日	総務広報課係長（秘書係）	宮 下 慎 也	総務広報課係長（総務広報係）
	施設課係長（施設マネジメント係）	栗 尾 員 徳	施設課係長（施設保全係）
	施設課係長（施設マネジメント係）	南 圭 奈	施設課係長（施設企画係）
	施設課係長（施設係（保全担当））	山 本 和 幸	施設課係長 （施設マネジメント係）
	入試戦略課係長（キャリア支援係）	大 倉 卓 也	研究協力課係長（研究戦略係）
	入試戦略課国際交流室係長（留学生係） 兼務免：学務課国際交流室係長（国際企画係）	武 川 梢	学務課国際交流室係長 （留学生係） 兼務：学務課国際交流室係長 （国際企画係）

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
	総務広報課主任（地域連携係）	三田村 はるか	経理課主任（経理第二係）
	総務広報課係員（人事企画係）	一 家 ひとみ	研究協力課係員（研究戦略係）
	施設課係員（施設係（保全担当））	毛 利 優 介	施設課係員（施設保全係）
	施設課係員（施設係（保全担当））	山 本 匡 汰	施設課係員（施設保全係）
	入試戦略課係員（キャリア支援係）	小 林 誠	学務課係員（キャリア支援係）
	入試戦略課国際交流室係員（留学生係）	高 橋 秀 徳	総務広報課係員（地域連携係）
	研究協力課係員（研究戦略係）	池 田 麻 衣	学務課国際交流室係員 （留学生係）
	入試戦略課国際交流室再雇用職員（国際企画係）	西 畑 寿 幸	学務課国際交流室再雇用職員 （国際企画係）
	<任用更新>		
令和2年4月1日	任用更新（任期の定めなし）	亀 川 厚 則	大学院工学研究科教授 （しくみ解明系領域）
	任用更新（任期の定めなし）	大 石 義 彦	大学院工学研究科助教 （もの創造系領域）
	任用更新（任期の定めなし）	武 内 裕 香	大学院工学研究科助教 （もの創造系領域）
	任用更新（任期の定めなし）	中 里 直 史	大学院工学研究科助教 （しくみ解明系領域）
		岸 徳 光	大学院工学研究科特任教授 （もの創造系領域） 兼務：寄附講座・社会基盤管理 工学講座
	<命>		
	理事補（任期：R3.3.31）	高 野 英 明	
	理事補（任期：R3.3.31）	木 幡 行 宏	
	理事補（任期：R3.3.31）	山 路 奈保子	
	理事補（任期：R3.3.31）	桃 野 直 樹	
	理事補（任期：R3.3.31）	塩 谷 浩 之	
	理事補（任期：R3.3.31）	清 水 一 道	
	理事補（任期：R3.3.31）	吉 成 哲	

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
	保健管理センター所長	田 所 重 紀	
	クリエイティブコラボレーションセンター長	徳 樂 清 孝	
	研究基盤設備共用センター長	中 野 博 人	
	〈兼 務〉		
令和2年4月1日	社会連携統括本部	楠 本 賢 太	大学院工学研究科助教 (もの創造系領域)
	技術部第一技術室長	小 師 隆	技術部技術専門員
	技術部第一副技術室長	若 杉 清 仁	技術部技術専門職員
	〈兼務免〉		
令和2年4月1日	ものづくり基盤センター	楠 本 賢 太	大学院工学研究科助教 (もの創造系領域)
	技術部第一副技術室長	小 師 隆	技術部技術専門員
	〈雇用期間満了〉		
令和2年3月31日		依 徳 日	大学院工学研究科博士研究員
		WORAMOL	大学院工学研究科博士研究員
		CHAOWARAT	
		WATANABE	
		WU DONGJIN	大学院工学研究科博士研究員
		本 間 麻奈美	大学院工学研究科事務補佐員
		野 村 未 希	環境科学・防災研究センター 事務補佐員
		猪 股 淑 子	ものづくり基盤センター 事務補佐員
		磯 辺 早 苗	地(知)の拠点推進室 事務補佐員
		打 田 鈴 菜	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		鈴 木 瑠 璃	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
		濁 川 創	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		林 航 汰	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		須 藤 弥 生	学務課国際交流室事務補佐員
		今 佳奈子	入試戦略課事務補佐員
		吉 田 愛	研究協力課事務補佐員
	〈採 用〉		
令和2年3月16日	大学院工学研究科事務補佐員	工 藤 ゆ き	
令和2年4月1日	広報室特定専門職員	武 内 琢 哉	
令和2年4月1日	施設課特定技術職員	羽 山 満 之	
令和2年4月1日	大学院工学研究科博士研究員	GENGXIONG	
令和2年4月1日	大学院工学研究科博士研究員	TRAN VINH HA	
令和2年4月1日	大学院工学研究科事務補佐員	松 原 みづほ	
令和2年4月1日	総務広報課図書学術情報室事務補佐員	清 水 琉 生	
令和2年4月1日	総務広報課図書学術情報室事務補佐員	庄 司 一 稀	
令和2年4月1日	総務広報課図書学術情報室事務補佐員	中津山 希	
令和2年4月1日	総務広報課図書学術情報室事務補佐員	平 井 望 丘	
令和2年4月1日	総務広報課図書学術情報室事務補佐員	結 城 翔 太	
	〈雇用期間更新〉		
令和2年4月1日		刀 川 眞	総務広報課特定専門職員
		木 村 通	希土類材料研究センター 博士研究員
		谷 口 美 緒	大学院工学研究科学術研究員
		植 村 好 美	大学院工学研究科事務補佐員
		木 藤 牧 子	大学院工学研究科事務補佐員
		小 沼 静 香	大学院工学研究科事務補佐員
		佐々木 恵梨菜	大学院工学研究科技術補佐員

人 事

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
		佐 藤 千 尋	大学院工学研究科事務補佐員
		杉 本 さ 恵	大学院工学研究科事務補佐員
		宗 成 美	大学院工学研究科事務補佐員
		竹 岡 紀 子	大学院工学研究科事務補佐員
		中 道 正 栄	大学院工学研究科事務補佐員
		小野寺 朋 子	クリエイティブコラボレーションセンター事務補佐員
		加 藤 優 里	クリエイティブコラボレーションセンター技術補佐員
		板 井 みどり	ロボットアリーナ技術補佐員
		斉 藤 昭 子	希土類材料研究センター事務補佐員
		石 田 達 也	ものづくり基盤センター技術補佐員
		岡 野 友 河	ものづくり基盤センター技術補佐員
		片 岸 祥 帆	ものづくり基盤センター技術補佐員
		金 井 達 哉	ものづくり基盤センター技術補佐員
		小松田 惟 樹	ものづくり基盤センター技術補佐員
		佐 藤 星 貴	ものづくり基盤センター技術補佐員
		高 成 真 輝	ものづくり基盤センター技術補佐員
		谷 塚 智 大	ものづくり基盤センター技術補佐員
		横 山 翔 一	ものづくり基盤センター技術補佐員
		池 野 佳 奈	総務広報課事務補佐員
		遠 藤 ゆきの	総務広報課事務補佐員
		山 形 香 里	総務広報課事務補佐員

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
		田野中 広 美	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		稲 見 栞	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		岡 田 果 莉	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		小野塚 悠 太	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		塚 本 優 希	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		坪 内 聡 汰	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		浦 田 順 子	学務課事務補佐員
		後 藤 むつみ	学務課事務補佐員
		丁 雪 花	学務課事務補佐員
		道 林 志 織	学務課事務補佐員
		加 藤 綾	入試戦略課事務補佐員
		野 田 葉津希	入試戦略課国際交流室 事務補佐員
	〈配置換〉		
令和2年4月1日	クリエイティブコラボレーションセンター 事務補佐員	品 川 亜衣子	地域協働機器センター 事務補佐員
	研究基盤設備共用センター事務補佐員	菊 地 香 名	地域協働機器センター 事務補佐員
	入試戦略課事務補佐員	田 村 佳 子	学務課事務補佐員

学内会議

学内各種委員会等の開催

< 2月25日～3月24日 >

開催日時 令和2年2月26日（水）
会議名 第18回役員会

開催日時 令和2年2月27日（木）
会議名 第11回教育研究評議会

開催日時 令和2年2月27日（木）
会議名 第2回国立大学法人室蘭工業大学教育・研究振興会運営委員会

開催日時 令和2年3月3日（火）
会議名 第12回企画戦略会議

開催日時 令和2年3月5日（木）
会議名 第6回教授会

開催日時 令和2年3月10日（火）
会議名 第19回役員会

開催日時 令和2年3月11日（水）
会議名 第8回大学院工学研究科博士後期課程専攻長等会議

開催日時 令和2年3月18日（水）
会議名 第5回経営協議会

開催日時 令和2年3月18日（水）
会議名 第2回国立大学法人室蘭工業大学学長選考会議

開催日時 令和2年3月19日（木）
会議名 第12回教育研究評議会

開催日時 令和2年3月19日（木）
会議名 第1回危機管理委員会

学内行事

- 2月25日（火） 一般入試（前期日程）（室蘭, 札幌, 仙台, 東京, 名古屋）
- 2月27日（木） 2020年度大学院博士前期課程入試（第2次募集）（一般・社会人・外国人留学生：28日）
- 2月27日（木） 2020年度4月大学院博士後期課程入試（第2次募集）（社会人）
- 3月6日（金） 一般入試前期日程合格発表
- 3月13日（金） 大学院博士後期課程社会人入学試験（第2次募集）合格発表
- 3月17日（火） ESTA2019優秀教員表彰式
- 3月18日（水） 月島機械株式会社との包括連携報告会
- 3月21日（土） 一般入試後期日程・大学院博士前期課程一般入試・外国人留学生入試（第2次募集）合格発表

学外行事

- 3月4日（水） 令和元年度第4回国立大学協会通常総会（東京）

編集後記

◆ 教職員の皆様からの随想，提言等の御寄稿，あるいは学報への御意見，御希望，また，日頃感じていることなど多数お寄せくださるようお待ちしております。

(リンク先：総務広報課総務広報係，E-mail：koho@mmm.muroran-it.ac.jp)

(総務広報課総務広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびよん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308